

義務教育学校における 教育内容の確立	中期（3年間） 経営目標	短期（今年度） 経営目標（2／3）	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					評価	結果と課題の説明	適正	意見等	
確かな学力	変化の激しい社会を生き抜くために必要な資質・能力を育成する。	児童生徒が、深い学びを自覚し、学びに向かい続ける授業づくりを進める。	自己の学びを振り返る場の推進 ・各教科における振り返り ・「学びのカード」の活用 校内研修の充実 ・授業観察と改善 ・授業での問いの工夫（問いの3階層） ・自己選択ができる授業の創造	・本校で育成したい資質・能力（①他人とうまくやっていく力②課題を乗り越える③自分を磨く力④未来へつなげる力）に係るアンケート調査（児童生徒、職員）の肯定的回答80%以上 ・授業観察者の「評価シート」による肯定的回答75%以上を継続	A	・資質・能力に関するアンケート調査の肯定的回答の平均は児童生徒：80.1%資質・能力別にみると、他人とうまくやっていく力に関して、児童生徒の肯定的回答が高く相手の考えや気持ちを受け止めようとする児童生徒の肯定的な回答が92%と高かった。一方で情報収集力は69%（質問11、12の平均）と低かった。普段の授業において、情報収集の場面はあるが、主観性を伴う調べ学習になるよう、教師の意図的な働きかけなど工夫が必要である。 ・「評価シート」による肯定的回答は全体平均87.3%であった。自己選択のできる授業を設定することで、児童生徒の主体性の向上に繋がった。また、ICTの活用や体験活動を行うことで、児童生徒の自ら学ぶとする態度に一定の成果が得られた。一方「評価シート」では、児童生徒は協働場面を通して考えを深めているに関しては90%以上が肯定的な回答だったが、児童生徒の意識調査では、決まてのぞましくない結果となっており、教師と児童生徒の感じ方にずれがあった。達成率は116%であり評価はAである。	○	・子どもたちに、授業、活動の意味を大切にさせてほしい。行事においても、発表等の意味を伝えることも大切にしてほしい。 ・評価指標について、経年の変化を視点とした指標を取り入れ、子供たちの変容を見えるようにしてほしい。 ・府中明郷学園だからこそといえるような評価指標を設定し、子どもたちの豊かな成長をめざしてほしい。	・行事、授業、活動における、児童生徒の課題意識を重視させる取組を進める。 ・学力の状況、児童生徒の意識を学力調査、質問紙調査、アンケートの分析を行い、児童生徒の変容意識を大切できるようにする。 ・府中明郷学園の特徴、CSと義務教育学校の機能をふまえた評価指標を設定し、自校の児童生徒ならではの成長、変容の検証軸となるようにする。 ・個の学力等の課題に応じた指導、個の課題意識に基づく教科指導の工夫の充実を図る。
		基礎学力の確実な定着と向上を図る。	ことば探究科による言語技術の習得 学力分析による授業改善及び個に応じた指導の充実 朝学習及び学力補充の時間（ぐんぐんタイム）の充実 ICTを効果的に活用した授業づくり	・言語技術を習得し、5段階ルーブリックの評定が2以下または3段階ルーブリックの評定1以下の児童生徒15%以下 ・全国学力・学習状況調査および市統一学力調査等の平均正答率が30%未満の児童生徒15%以下	A	・言語技術の習得については、1月末までの3段階ルーブリックの評定1以下の児童生徒の割合は、7.9%であった。型に沿って自分の思いや考えを表現できる児童生徒が増えてきている。達成率は108%であり、評価はAである。 ・全国学力・学習状況調査及び市統一学力調査における平均正答率が30%未満の児童生徒は、国語4%、算数・数学11%、社会19%、理科11%、英語5%で、全調査の平均は10%であり目標を達成しているが、正答率が30%未満の児童生徒もおり課題が残る。達成率は105%であり、評価はAである。	○	・学園が重視する4つの資質・能力や学力などに、のぞましい伸長が見られる。学校教育目標の主要素といえる主体性、協働性の状況が十分でないことに課題意識をもつこと。 ・学力に課題のある子どもの状況を踏まえていすような指導を大切にしてほしい。	
地域と創る学校	地域と共に創造する児童生徒を育成する。	児童生徒に関わる家庭・地域と連携して、同じ目標に向かう協力体制を築く。	キャリア教育におけるカリキュラムの実践及び地域への発信をする。	・地域に開かれた教育課程に係るアンケート調査とキャリア教育に係るアンケート調査（児童生徒、保護者、地域住民）の肯定的回答80%以上	A	・各学期で実施した「児童生徒アンケート」では、「学校での学びを地域社会で生かそうとしているか」の項目での肯定的回答が84%、「学校や地域社会と関わり、これからも参加・参画したいと思うか」の肯定的回答は81%であった。同じく保護者、地域住民を対象としたアンケートでは、肯定的回答の平均値が82%であり、地域参画への意識は高まってきている。達成率は102%であり、評価はAである。	○	・キャリア教育の更なる充実のために、9年間のつながりを大切にしてほしい。 ・前期課程の児童のリーダー性、後期課程の生徒の地域社会への参画意識が伸長した。 ・子どもの未来への認識や相手意識に課題がある状況は、本学園の豊かな体験やかかわりによる深い認識があるからこそ、自省的に自身をみつめているのではないだろうか。 ・保護者の地域への参画の視点も大切にして取り組んでほしい。	・教師の校種間の協働、双方向の取組を進める。 ・「地域仲良し感謝祭」の取組を継続するとともに、早い段階の取組を進め、地域の方が、より一層参加することができるようしていく。
		児童生徒が地域と協働及び参画しようとする地域づくりを進める。	CS各組織や地域・企業と連携し、地域学習の充実を図る。 学校運営協議会（地域活動部会）や産業界、他校との連携充実を図る。	・地域行事や地域産業界と協働する活動へ参加した児童生徒90%以上 ・地域と協働し、活動に参画した生徒80%以上	A	・地域により感謝祭、模擬会社LinkS、響命祭など地域・産業界と関わる学習の継続を設定することにより、90%以上の児童生徒が参加することができた。 ・児童生徒は地域と関わる行事を企画・運営することにより、学校全体で地域との関りの楽しさや、郷土の大切さを味わうことで、地域貢献の行事へ95%の児童生徒が参加をし、達成率は118%であり、評価はAである。	○		・広報活動を充実させ、児童生徒の学びを発信し、地域学校協働の取組の意義について、保護者の認識を高められるようにする。